

平成30年9月11日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜  
1番 坂口正勝  
3番 猪村利恵子  
5番 江口康成  
7番 上田雄一  
9番 吉川里己  
11番 松尾陽輔  
13番 石橋敏伸  
15番 松尾初秋  
18番 牟田勝浩

副議長 川原千秋  
2番 豊村貴司  
4番 山口等  
6番 吉原新司  
8番 古川盛義  
10番 末藤正幸  
12番 池田大生  
14番 宮本栄八  
16番 山口昌宏

2. 欠席議員

20番 江原一雄

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 末藤彰彦  
次 長 江上新治  
議事係 長 吉永和彦  
議事係 員 田中弘一

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	浦	郷		究
総	務	部	水	町	直	久
企	画	部	古	賀	龍	一
営	業	部	神	宮	一	文
営	業	部	松	尾	和	久
福	祉	部	岩	瀬		清
福	祉	部	牟	田	由	紀
こ	ど	も	松	尾		徹
こ	ど	も	山	口	泰	光
ま	ち	づ	庭	木		淳
ま	ち	づ	高	倉	秀	昭
会	計	管	末	藤	勇	二
上	下	水	今	福		剛
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	山	崎	正	和
企	画	政	松	尾	謙	一

議 事 日 程 第 3 号

9月11日（火）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成30年9月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
5	18 牟 田 勝 浩	1. 武雄市の活性化について
6	7 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. 市長の政治姿勢について
7	20 江 原 一 雄  ※欠席のため 一般質問取り下げ	1. 市長の政治姿勢について 1) 人事について 2) 平和事業について  2. 防災行政無線のとりくみについて  3. 国保問題について 1) 「国保の構造問題」を解決するために 2) 均等割の見直しについて  4. 農政について 1) 渇水対策について
8	3 猪 村 利 恵 子	1. 安全・安心なまちづくりについて 1) 避難所・体制の整備状況について 2) 多様な災害の対応について  2. 教育について 1) 図書館・図書室について 2) 司書配置 3) まちづくり（学びあいのまちづくり）

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

本日は 20 番江原議員から欠席届が出されております。あわせて一般質問の取り下げも出されておりますので、本日は3名による一般質問となります。

それでは、18 番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

(全般モニター使用) おはようございます。議長より質問の許可が出ました。質問を開始したいと思います。

この画像は、先日開通した若木バイパスですね。若木バイパスは 11 年かけてできたんですけども、今まで川古の大楠というのは 3000 年の歴史って言いますけど、3000 年として、2940 年は通り沿いにあったんですね。ところが、ここ 60 年ほどは、通りからは全く、メインの通りからは全く見えない大楠でした。ところが、このバイパスが開通したことにより、八幡岳を借景にすばらしく見えるようになりました。

これも道一本でいろんな情景が変わる、例えば新幹線が来て、いろんな事情が変わる、これと同じことだと思います。それをどう生かすかというのは、そこの自治、そして市の役目だと思っております。

まず最初に、これちょっと紹介したいんですけども、武雄市が竿燈まつりのお礼っていうか、さらに親睦を深めるために秋田に小学生を派遣されました。

その小学生の件で聞いたんですけども、この小学生、秋田から帰るときに秋田駅で葉隠墓苑の方向はどちらですかと地元の人に聞き、葉隠墓苑の方向はこっちですということで聞いて、一列に並び皆で礼をしたと。これ、教育長、御存じですか。これ、もう秋田の人は大感激だったらしいです。武雄の小学生すばらしい、武雄すばらしいと。こうやって帰るときも駅で一礼して、そこに向かって一礼して帰る。さすが武雄藩士の子孫だということを漏れ伺いました。

やっぱりこういう気持ちを忘れずに私も活動に、小学生から教えられる気持ちで頑張っていきたいと思います。

では、次です。これ何かわかりますか。

[3 番「ペリー来航」]

さすが猪村議員さん。ペリー来航ですね。黒船です。ペリーですね。

これ、何でこれを出したか。

幕府は——これ、泰平の眠りを覚ます上喜撰って川柳もあるんですけども、何でこれを出したかっていうと幕府は、本当は 2 年前から黒船が浦賀に来ることは知ってたんですね。これ教科書には出ないです。本当は、黒船が来るのを 2 年ほど前からわかっている、それも浦賀付近に来るといのはわかっていたと。

じゃあ幕府はどう対応したか。会議と話し合い、それだけだったそうです。来る、来る、来る、どうしよう、どうしよう、どうしよう、話し合いだ、話し合いだ。小手先のことをちょちょっとやるだけで、例えば浦賀の奉行にも伝えない、与力にも伝えない。来て、おろおろする。

やっぱりこういう状況だといけないんですね。

新幹線もまさにそうです。何年後、新幹線が来る。話し合いだけでなく、きちっと動か

なきやいけない。

何年後、国体が来る。きちんと動かなきゃいけない。何年後、何かがある。

きのう、松尾陽輔議員さんが2025年問題、40年問題、もう来るってわかってる。話し合い、話し合いではいけない。何か動かなきゃいけない。

このペリーの話を聞いて、私はもう、すぐそっちのほうを思い浮かべました。ぜひ話し合いだけではなく、当時の幕閣、――それで幕府倒れたんですね。不平等条約もそれで急遽結ばなきゃならなくなると。やっぱりこういうことがないような形でやらなきゃいけない、すぐ頭に浮かんだのでちょっと紹介しました。

では、武雄市の活性化ということで入っていきたいと思います。

これはさっき言いましたバイパスから、方向から見た大楠公園、こういうふうにして借景きれいに見えます。

1番目、観光。もえるまち、訪れたいまち武雄、これがずっと武雄の合い言葉でした。武雄市のスローガンでありました。これはこういう言葉知っているのも、大分上のほうの職員さんしかいないと思いますけども、ロゴマークもありましたね。いつも、もえるまち、訪れたいまち、もえるまち武雄っていうことを言われてました。

1番目、観光。本当に重要な産業だと思いますし、例えば武雄町だけでなく山内町、北方町、若木町、いろんな観光があります。

そういう中でぜひ紹介したいのが、ちょっと小さくてごめんなさい、これ佐世保です。佐世保の駅っていうのがわかりますかね。駅が、佐世保っていうこれ駅ですね。

駅の手前のところに、今、湾といいますか、船の接岸するところが開発されています。佐世保港国際旅客船拠点形成計画というのが計画されています。

そういう中で、ちょうど真ん中の白い左斜め線のところが、ちょうど今というか、もうされてまして、これが16万トンの客船を接岸できる能力を持つところです。佐世保はそれをつくることによって、約600億円の経済効果があるということを算出されています。

エンタープライズとかニミッツとかカールビンソンってよくアメリカ軍のやつ聞きます。あれでも10万トンですよ。

16万トン。大体10万トン前後の豪華客船、客船で、客員は2,000人から3,000人ですよ、一つの船で。その人たちがここに接岸される。その人たちが佐世保に散る。あとどこに散るでしょう。そういうのをどんどんこれから佐世保はやっていくそうです。

というところで、佐世保線。新幹線のことを言いましたけども、新幹線が来るとわかっている中で、私は力入れていただきたいのは、もちろん新幹線自体も力を入れていただきたいと思います。でも、この佐世保線、武雄から分岐、武雄がスタート、武雄がハブ、この佐世保線をもっと力を入れて提携していかなければならないんじゃないか、それが観光に今後大きく結びつくんじゃないか。

佐世保といえば、豊村議員さんの出身地ですよ。こうやってつながりもあります。そういう中で佐世保線、ぜひ力を入れていただきたい。

繰り返しになりますけども、武雄が分岐点、武雄がハブです。その武雄の、特急でいうと次は有田町、世界に関する有田町です。その先は長崎県になりますけども、波佐見町。波佐見もここ数年、数年っていうか、もう相当に伸びてきております。その先は、御存じハウステンボスがあります。IR法案も通りました。大学もあります。

さらに佐世保、軍もありますし、そしてさっき言いました超大型客船が、16万トンになるとお客さんは4,000人超えます。超大型客船がとめられることをやっている佐世保。

この佐世保線というのは、武雄の今後の観光、新幹線に接続する、もしくは長崎から来る、そういうふうな部分で佐世保線に力、観光という面で、武雄だけじゃなくて、有田、波佐見、早岐、佐世保と提携していくのが今後の観光の大きな一つだと思います。

例えば新幹線、長崎からいうと嬉野が武雄の手前になりますね、長崎からいうと。だからそういう部分を含めてこの佐世保線、武雄がスタート、佐世保がスタート、必ず武雄にとまる、そういうことでやっていただきたいし、まず第一の質問は、この佐世保線、市長は観光の面に関して今度新幹線が来る、先ほど言いました国際線が接岸できる波止場というか港湾、その部分を鑑み、さらに隣の有田、これは佐賀県内にありますので、隣の有田とどうやって提携していこうと思っているのか、私は大変重要な位置づけだと思いますけども、今の2点、市長はいかがお思いか、これをお伺いしたいと思います。

繰り返しになります。ペリーが来るのは2年前からわかってました。でも話し合い、小手先部分で終わった幕府は変わりました。

ぜひ深慮な考えで佐世保線、そして有田との提携、これをお伺いしたいと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

小松市長

#### ○小松市長〔登壇〕

おはようございます。私もこの佐世保線、非常に大事だというふうに思っています。

今回の新幹線が来るということでどうしても武雄、長崎に目が行きがちなんですけれども、確かに今まではどっちかという東からお客さんと呼んでいた、これからは新幹線ができることで西からお客さんと呼ぶ、西をより意識するということはあると思いますし、当然、新幹線の部分、長崎、大村、そういったところは大事だと思っておりますけれども、さっき牟田議員おっしゃったように、長崎から考えると佐賀の一番の入り口はやっぱり地理的に嬉野になると。嬉野じゃなくて武雄にあるものは、まさに佐世保線であるというふうに思っています。

新幹線と佐世保線の分岐点になるのがこの武雄だということで、この武雄がハブ都市として地の利を生かして人を呼び込むためには、やはりこの佐世保線沿線をどうするかという

ころは非常に大事だと思っております。

佐世保については先日、朝長市長とも話をしました。

さらにクルーズ船でお客さんがたくさん来ると、佐世保だけでは受けきれないということで、現在、有田のポーセリンパークとかにもお客さん行っていますけれども、それをさらにですね、さらにもう一步武雄に呼び込む、そのための取り組み、これについてはいち早く実践をしていかなければならないと思っています。

加えて有田についてはですね、これも有田町長と話をしました。

有田は、よく言われるのは宿泊施設がない、有田焼はあるけど宿泊施設はない。一方で武雄はいろいろなものがあり、宿泊施設がある。補完関係にあると思っています。

大事なのは、有田に来て帰る、武雄に来て帰るではなくて、有田と武雄がしっかり手を組んで、より長くこのエリアとして滞在をしてもらうということが大事だと思っています。ここは共同キャンペーンをはろうとか、そういった話もしていました。ここについても情報発信、さまざまな連携を、とにかくこれは待たなしですので、しっかりと有田とも連携をして進めてまいりたいと考えております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

#### ○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

市長の気概を感じさせるような答弁で本当にうれしいと思いますし、さらにやっぱりそうやって進めていていただきたいと思います。

佐世保港はまだこれから伸びるところなんですね。

大型客船が一番日本に来ているところはどこだと思いますか。

よく言われるのが横浜港じゃないかと。いやいや、神戸港だとか、大阪だとか、いろいろ言われますけども、1 番は博多です。1 番は博多、2 番が長崎です。

さっき言いました横浜は、佐世保よりも少ないんですね。佐世保は今、全国で7 番目です。でもこうやって港湾が開発されると、それは一挙にぐわっと伸びるでしょう。

さっき言いました、算出される経済効果は600 億。その運営をきちんと提携してやっていかなければならないと思いますし、佐世保はいいことに、佐世保競輪がございますよね。武雄とは提携しやすい部分だと思います。

競輪市長会、そして、そこに座ってらっしゃる議長も競輪議長会、いろんな面で武雄とつながりがあると思いますので、そういうのを利用してぜひやっていただきたいし、もう一つはさっき言いました、小松市長自身も、有田の松尾町長とはそうやって連携をとっていると。

先日ですね、武雄の山下観光協会会長とともに松尾町長さんのところにお伺いして、やっぱりこういう観光の面でも提携していきたいということで言われました。もちろん、松尾町長は小松市長とも一緒にやっていきたいということで言われております。

例えば観光の面でも、何て言うんですか、ICTを使ったラインボットですね、ラインボットを使った部分も、もし武雄で開発されるんなら我々も乗りたいとか、そういう言葉も話されています。

やっぱりこうやって提携していく、そして有田っていうのは世界のビッグネーム、ぜひこれからもそういうことで、佐世保、有田、有田町のこのにぎわいを——有田も陶器市、そろそろいろんな面で考えなきゃいけないという部分で、やっぱり武雄との提携、いろんなところの提携、佐世保との提携。さらにおもしろいのは波佐見。波佐見との提携っていうのもおもしろいと思います。波佐見も伸びているところですし、やっぱりこういうことで、ぜひ佐世保線、そして有田っていう部分を強く手を握ってやっていただきたいと思います。

では、次に入ります。

さっき言いました、港湾に10万トンの客船が着く、3,000人乗っている。3,000人じゃあどうするのか、バスに乗られます。旅行会社、多くはですね。フリーの人はフリーで行かれます。段々フリーの比率がふえていっているらしいんですけども、ツアーのほうでいくとバス。

3,000人がバスというと何台くらいになりますかね、大型バス。大型バス60人ぐらいですかね、50人くらい。それでも3,000人、フリーの方が3分の1いたとして、2,000人のバスというと何台ですかね。50人で40台、40台のバス、もしくは30台のバス、これを受け入れる施設。例えばハウステンボスあります。じゃあ佐賀はどうかと。

有田に一つあるんですね。そこが、これは県から聞いたんですけども、有田にほとんど行くと。有田のある施設、——別に言っても、——ポーセリンパークですかね、あそこ駐車場めっちゃとめられるらしいですね。だからこっちのほうに行くと。バスの駐車場があるところをとにかく探されているということを伺いました。そうすればそのバスが、旅行会社もつくりやすい、いろんな面で作ったりしやすいということを聞いております。

そういう中で駐車場といえば、——ごめんなさい、これ違う。——駐車場といえば、これグーグルマップ拡大したんですけど、武雄市役所ちょっとまだできていない上空写真なんですけども、市役所、駐車場足りていますか。私、何度もとめられないことありました。

例えば水道課の方もこの庁舎に入っている、両庁舎の方々もこの庁舎に入っている。いろんな面で多分、駐車場足りないんじゃないですか。ちょっとした会議があればとめられなくなります。

そういう中で、やっぱり駐車場不足。仮の話、駅の南側で今借りているところが、その土地の持ち主が何か使うからちょっと移転してくれて言われたときに、じゃあ職員さんどこにとめるの。また離れたところはやっぱり職員さんかわいそうですよ。

やっぱり駐車場のことを考えなきゃいけないし、市民のこうやってとめるところは、——私は2回ほど、職員さんが、ここにとめてくださいとかこっちとめてくださいって誘導され



ました。とめられなくて。職員さん、普通の職員さんがですよ。

やっぱりそういうことで、私は絶対的に今、この新武雄市役所の駐車場は足りないんじゃないかっていうふうに思っております。

そういう中で、一つは今とめられないこの職員駐車場ですね。職員駐車場を鉄骨、鉄筋でいいから2階建てにできないのか。ここのところですね、2階建ての駐車場にできないか。ここ結構とめられますよね。2階建て、いろいろしていたら上もう青空でいいと思います。鉄骨だけです。鉄骨のよくあるやつで。そうしたら、倍まではいきませんが、倍近くこことめられると。

でもね牟田君、この旧武雄市役所どがんすつとね。ここどうせ更地になあぎ、そっちとめでよかたいねというふうな話もあるやもしれません。

ここがさっき言った何十台っていうバスがとめられるところなんですよ。そして、そういうふうにしてとっておくと、将来何か使おうとしたときにそのまま使える。そういうことを鑑みるとやっぱり、ここんところを2階の鉄骨のほうがいいんじゃないか。ここんところを、どうせ旧武雄市役所は耐震がだめで更地にしちゃう。更地にしたところを、職員さんの駐車場とか何とかしたら、その後の活用が難しくなる。

そうした場合、さっき言いましたバスが、とにかくこういうのが来て、何十台っていうバス、もちろん分散します。30台と20台と。1台だけどっか行くっていうのはないです。だからこういうのを鑑みると、大きな駐車場を確保しておくのも一つの営業の大きな武器だと思っております。

だから、ここのところはそういうふうに更地にしたらそういうバスとか観光の面で特化して、こっちを2階建てにする。例えばそれが少なかったとか、もし何か将来的にここに何かが来たい、例えば学校、専門学校とか来たいっていうときはスムーズにやれます。

ここを何かの駐車場とか何かを建てちゃうと、——ここ昭和の1-1、一番いいとこです。

やっぱりそういうふうな、武雄市になるやつが来るのをきちんとしながらやるには、ここのところをそうやって様子を見ながらやっていったほうがいいっていうふうに私は思っております。

武雄市の駐車場不足、そして観光の一つの大きな受け入れの武器になる、以上はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

おはようございます。駐車場の件でございますけれども、今月18日から武雄税務署もこの新庁舎で業務を開始されます。これにより庁舎周辺の駐車場の必要台数、新たな状況が見えてくると思われます。

これらを踏まえて、最終的な旧庁舎の活用方法について協議を重ねていかなければなりませんけれども、現在、旧庁舎の解体は契約を済ませて、今月末ごろから解体工事が始まる予定でございますけれども、解体後、まずは簡易舗装をして駐車場として利用いたします。

御提案の観光駐車場、あるいは立体駐車場についても、今後の活用方法を協議検討する中で議論できればと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

18 番 牟田議員

**○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

ぜひ検討に加えていただきたいと思います。

ここは川端通り、中町通り、いろんな武雄の夜が。いつも盛況とは言えません。やっぱりこの駐車場があるからで、昼は観光駐車場、夜はそうやっていろんなところに行く駐車場。休み前とか、とめられないぐらいありますよね。

やっぱりこのところを、職員さんの駐車場 2 段にしたほうが一番効率的だと思います。もう安く鉄骨の 2 階建て、よくあるやつでいいと思います。ぜひ御検討ください。

では、次に移ります。すみません、これさっきの観光やったですね。

スポーツ・大会誘致。スポーツ及び大会誘致。ここ、スポーツ大会じゃない、スポーツ・大会誘致ですね。

武雄市は企業立地、企業立地課っていうのがあります。

いろんな大会、よく聞くのが、嬉野のみゆき公園のところ合宿に来た何々が、大会があつてる、蟻尾山公園であつてる。もう一つは、例えば伊万里で野球の 2 軍か何かしたとか、いろんな大会が来ております。

武雄も、もちろんあつているとは思いますが、今、武雄のほうで来てもらっているのは、どこを中心にして引っ張ってきてるのか。ただ来てるのか、引っ張ってきてるのか。来てるのか、引っ張るのか。繰り返します。来てるのか、引っ張るのか。この違いだと思います。やっぱり来るのは来るけど、引っ張らなきゃいけない。

そういう中で、企業は企業立地課——私、以前ですね、企業立地課とか誘致のほうはぜひ旅費をいっぱいつけてくれと、営業だからと。営業だから、もう全国回るのは当たり前だということでこの議会で言ったことがあると思います。

こっちも同じだと思います。

ただ、ある人が、こうやって大会が来るというけど、どうだろうとか。B という人が、こういう大会の話があるけどどうだろうかと、もうばらばらなんですね。

だからまず、1 つ目の質問。その大会誘致、スポーツ誘致、大会というのは何々大会ですね。文化会館とかいろんな施設を使った、コンベンションシティっていうやつですね、俗に言う。そういうやつ、きちんとした窓口はあるのかっていうのが 1 つの質問。

2つ目。例えばさっき言いましたペリーのことではありません。国体もあります。オリンピックのやつが来るかどうかで、わかりません。そういうやつの予定はどうなっているのか、以上2点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

議員の御質問でございますが、現在、窓口につきましては生涯学習課のスポーツ係というところを中心にやっておりますが、現在そこでの大きな動き、誘致等についてはそちらのほうでやっているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそういうような窓口を一本化して、できればスポーツ誘致課、大会誘致課、どちらでもいいと思います。そういう課を、課とか室を設置してそういう大会へ向けて、何て言うんですか、——窓口っていうか、さっきくしくも部長さんが窓口っていう言葉が使われました。窓口もいいんですけども、話が来るのか引っ張ってくるのか、両方やらなきゃいけない。話が来るのはできるだけ受けて、まあできないものもあるでしょう。今の施設の関係で、いろんな部分があると思います。ぜひそういうふうな、引っ張ってくる。

武雄市役所の中でもいろんな立場の人、いろんな方々いて、こういう大会やあぎんと、話つけてよかばいっていう人結構いらっしゃるかもしれません。

そういう中で、やっぱりそういう方々を中心に耳を聞きそこが動くと、ぜひそういうふうな課を、できれば新設していただければそれでもいいですし、それに見合った部分をやっていただければ今後そういう大会誘致とかでも、よそにとられた、とられたっていう言葉は変ですけども、武雄市でこんくらいやあぎできたとか言わないで済むようにやっていただければと思うんですけども、市長いかが思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

現在、教育委員会の先ほどのところを、さっきの言葉で言うと窓口にして、例えば企業立地課が持っている企業のつながりとかも、そこにしっかりつないで誘致活動を行っているところでもあります。そこは合宿誘致もありますし、あとは大きい大会であれば今話しているのが、嬉野と鹿島と一緒に呼ばれようという話を、市長さんとはよくしているところでもあります。

これから2020年オリンピック・パラリンピック、そして2023年の佐賀国体ということで、

大変こう、佐賀県内も武雄もスポーツで盛り上がってくる時期であります。

現在、体育、誘致に加えまして、現在、体育施設であれば、これについては副市長をトップに検討しておりますし、そこに加えて誘致となりますと、ちょうどこのタイミングは市民のスポーツ人口をふやすすいタイミングではないかというふうに思っております。

そういった誘致だけでなく、市内のスポーツのあり方、ここも含めた上で施設、体制のあり方、強化については前向きに考えていきたいと思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

#### ○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。

大会誘致、そしていろんなスポーツ誘致、合宿誘致、多分一人の人がやったら、もう本当でんてこ舞いでしなきゃいけないぐらいやと思います。

話が来たら、武雄でできるものは受ける。こういうのは武雄でできそうになっていう話を聞いたら、そこに行って引っ張ってくる。こういうふうな施設が、やり方が本当にいいと思いますので、例えばもしこの後、組織編成とかあれば、そういうのも御一考していただければと思います。

では、次の質問に移りたいと思います。

次は防災、地域保全、こちらのほうに移りたいと思います。

もう今いろんな、——今、台風が東から来る時代になったんですね。この前の異常気象の高温、そして武雄市初の、初のといいますか、今、何十年にない雨が降るっていう警報。本当に異常、異常って言いながら、例えば来年も同じことすると、異常が通常になっちゃうわけですね。もう異常が異常でなくなる、そういう事態になっていくと思います。

ぜひ防災っていう部分はきちんとやって、何て言うんですか、備えあればじゃないですけども備えを今まで以上に。

俗に言う言葉が、想定外っていう言葉があるんですね。やっぱり想定外っていうのがこれからどんどん出てくると思います。そういう、想定外っていう部分がないように防災のほうもやっていただきたいと思っておりますし、今までもずっと私自身、消防団活動もしておりますし、この議会でも防災、消防関係いつもやってまいりました。

そういう中で、以前からちょっとお願いしている部分。

今度、例えば北海道地震とか大阪の台風とか岡山、そういう部分を見ていると、通常の場合は、例えばインターネット、Wi-Fi、スマホできちんと情報がとれるんですね。北海道は全部停電。Wi-Fi も消えてしまう。じゃあどうするのか。

災害のときは、やっぱり災害に対する準備。災害中、災害後、その中で重要度が上位に占めるのが情報なんですね。やっぱり情報をいかにきちんと市民、そしてその該当者に伝える

のかつていう。

例えばツイッターでよくあるのが、どこどこに食料が足りません。至急お願いしますとしてたら、みんな拡散していくわけですね。拡散して、あそこ足らなごたよ、足らなごたよ、足らなごたよって。これ、よくありがちなんですけれども、3日前のやつを拡散したら、もうそこは食料十分行き渡っているのにまた来るわけですね。やっぱりリアルな情報を、きちんとした情報を伝えなきゃいけない。

それはもちろん一番大切なのは、そこに住まわれている方、被災者に対して一番やらなきゃいけないところでもありますので、やっぱりそういうのを考えたときに、毎回っていうか、何回かした質問をちょっとぶり返しになりますけれども、FM、FM。ミニFM局、前から私3回ほど質問をいたしましたし、吉川前副議長も質問をされていました。何とかこうやってFM放送、ミニFM局が開局できないかということでやっていました。

やっぱり一番リアルなんですよね。そして、電源が切れてもラジオ1個で聞くことができる。その災害等、——やっぱりそういう部分も今度からは、やっぱり少し本腰を入れて考えていかなきゃいけない。

想定外っていうのがふえてくるっていうのが、先ほど言いましたので、ぜひそういう部分を鑑みてやっていただければと思いますし、今いろんなコミュニティ放送への地方財政措置がとられております。例えば活性化事業債の場合は事業費の73%、交付税算入率は30%、充当率90%、これさっき言いました、算入率は30%。例えば過疎債を利用すれば、さらにいろんな部分が使えると。開局って2,000万円ぐらいかかるとは思いますけれども、こういうのを使えば余りかからないわけですね。

今、もう本当に災害が出てきてから、こういう部分が本当に多くなりました。

財政措置もほかにもいっぱいあります。

そういう中で、こういうのも一つのまた選択肢ではないかと思えます。

この辺に関して、——次なんやったっけな。あ、違いますね。——この辺に関してどうだと思うか、質問したいと思えますし、さらに最近はインターネットラジオというのがあります。スマホでラジオが聞けるっていう部分なんですけれども、そういう部分も考えられます。

もう一つはインターネットで、——これは電源がある場合に限ってですよ。インターネットでリアルに、例えば放送局なんてすぐできるんですね。ゴープロ1個ある、カメラ、スマホ1個でもできます。

例えば危機管理室にゴープロ1個を置いて、しゃべってすれば、それがユーチューブなり、この議会が今映されているユーストリームなり、そういう部分で放送できます。危機管理室で、今どこどこ危ないですって言えばすぐ載るんですね。

よく私、虎ノ門ニュースっていうやつを見るんですけれども、やっぱりそれと同じ規模でやると、もう本当カメラ1個でいいと思えます。

やっぱり、そういう部分も含めてFMとかそういうのを考えていく時期に来ているのではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

コミュニティFMにつきましては、地域密着の情報を届ける有効な手段であって、災害時に防災情報や、それから各種生活情報を配信することのできる、そんな役割が期待されていると思います。

ただ、総務省の調査によりますと、赤字経営のFM局も多くて、安定した経営基盤の確立が課題であるといった報告もあるところでございます。

先ほど議員からも御紹介ありましたように、そのやり方次第では、あるいは財源も求めることもできるかと思いますが、今のところ武雄市内にコミュニティFMがございませんので、その開局、それからその運営等を考えた場合、現段階では費用負担の面から少し難しいのではないかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

確かにおっしゃるとおり、赤字で占めているところあります。

それは一番最初の3,000万円という設備投資の返済の部分ですね。さらにもう一つが運営費、一番最初設備投資したそこにスタッフをいっぱい置いてしまった。

今はさっき言ったような財政措置があります。財政措置で一番最初のスタート経費は少なく済む。さらに、例えばパーソナリティとかいろんな部分は、みんな交代すればいい。

例えば、こちらのほうもいろんなところと契約されていますよね、放送とか何とか。そういう部分を回していけばできるのではないかな。

もちろん人件費っていう部分があるけど、雇用対策のやつでいろんな人たちやっていたよね。そういう感じも含めてやれば何とかできるんじゃないかという選択肢の一つ。

例えば、もう一つ言いましたゴープロとかカメラ1個あれば危機管理室から生で放送される。今ここがこういう状況ですと、やっぱりそういうのもできる。

だから、そういうふうな情報伝達、さっき言いました、大切なのは生の情報、今現在の情報。

例えば、六角川が今回若干オーバーフローしました。今までオーバーフローというのは余りなかったんですけども、オーバーフローして、どこどこがオーバーフローしていますので、地域の皆さん気をつけてくださいって、スピーカーで放送して、あの大雨の中聞こえますかね。多分聞こえんと思います。

例えばそこが停電してたりなんかしたら、繰り返しになりますけども、想定外というのがまかり通っているこの現在、災害、人命、市民の福祉、財産を守るために、その想定外という部分をできるだけ。想定外というのはもう仕方ないです。でもできるだけ、それを少なくする努力をやっていただきたいし、それに対する検討を今後も加えていっていただければと思います。

では次、これはそのときの雨の災害ですね。民家の裏がこうやって崩れている。この前の災害のときです。

これも別のところですけども、裏山が、裏がえぐれている。

これは、ここには民家はないんですけども、農道の部分が崩れてちょっとなかなか通るのも怖い。これイノシシじゃないですね、これイノシシ柵ですけども。

これは民家の裏が崩れてる、これ消防団でこうやってやっているところです。

これも民家の真裏、1メートルも離れていないところが崩れました。

次もああかな。これも道路のところ、これ全部うちの地元、私の地元のところで消防団が出たところなんですけど。次もかな。こうやって消防団ちゃんと頑張っております。

あと、こうやって地域の保全っていうのも地域の人たちでやっている。

これは昨日、松尾陽輔議員さんが地域でやるのは限界が来ているっていうことがありました。地区は少なくなっている、でも面積は変わらない。こうやってやっている。僕も同じ区役でやってるんですけども、やっぱりこうやってやっている。これもずっと全部刈らなきゃいけない。

でも、ここは松浦川って言いますが、ここ昔刈ったらお金出てたんですね。これもきのう、松尾陽輔議員さんがおっしゃってたんですけど、もう刈る余裕がないんですね。お金が入るのはわかってるんですけども、刈るパワーが、人的パワーがないというふうなところです。

これかな、こうやってやってるんですね。これ僕の草刈り機です。——まあどうでもいいんですけども。

やっぱりこうやって、ここでお願いしたいのは、もう市の段階ではどうにもできないんじゃないかと思うんですよ。

以前、裏が急傾斜で崩れていたときは、個人負担は大体5%でよかったと記憶しています。以前は。ところが、それが25%になりました。できれば、これを元の5%に戻す、これは市ではもう、どうにもできないと思います。だからぜひ小松市長、周辺部の声を県に、国に伝えていっていただきたい。

例えば25%払えないから、裏の崩れたところをそのままにしているっていうのが、幾らでもあるんですね、危ないのに。うちの地元もあります。本当は手つきたい、危ない、雨のたびに本当に心配だと、そういう中で、でも300万円かかって25%、75万円が払えない。特に独居老人とかそういうところは払えない、だからそのままにしている。これはもう市ではどう

にもできないことです。

だから市長に、ここでお願いですけども、この声をぜひ武雄から、市長が貧困家庭で首長グループをつくったような形で、ぜひ全国にそういう周辺部の声を上げるまとめ役みたいな形で、ぜひ武雄市が旗を振っていただけないものか。

地域の保全、そして国土の保全っていうのは、地域だけではなく、先ほど言いました国土の保全でもあります。ぜひその部分を、市長は強く国、県のほうに伝えていっていただきたい。

例えば市長会の話題にしてもいいし、国会議員さんへの陳情、そういう部分でもあるんでぜひ、例えばさっき言いました5%負担に、もとに戻せないものかとか、ぜひそういう部分の市長のそういうお気持ちを聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

国土の保全というのは、非常に大事なことであります。

この前の災害の後、たしか牟田議員さんと一緒に、まさに中山間地の住民の皆さんからそういう声を私も聞きました。

国の、——例えば家の裏が崩壊しました。そういうときに国、そして県の補助事業があっても、必ず受益者負担というのが発生をしていると。

ただし、この人口減少の中で、果たして今の制度がふさわしいんだろうかというのは私も思っております。

そういった地元の皆さんの、中山間地の国土の保全、暮らしを守っていらっしゃる皆さんの声をしっかりと、ここは市長会並びに県、そして国に私もしっかりと要望してまいりたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番牟田議員

**○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

ぜひお願いしたいと思います。

地域の、本当に何ていうか、もう言葉にできないくらい切実な課題です。裏がそのままにしてあると、でも25%払えない。昔の5%だったら何とかできるのに、そういう声をいっぱい聞きます。

市では何ともできませんので、ぜひ伝えていただきたいということで、市長のそうやって熱意をお伺いし、ちょっとうれしいところでもあります。

では続いて、次のものです。

人口減とかいろんな部分で、地域の経済活性化に寄与するのは雇用だということをいつも



伝えてきました。やっぱりこういう雇用の部分。

この前、センチュリーホテルで合同説明会があつて、大盛況だったと。やっぱり地域の子どもたちを外に出さない、地域で育った人を外に出さない、例えば仕事を変えたいけど外にしかない、そういう人たちのためにやっぱりこういう雇用の説明会っていうのは物すごくすばらしいことだと思っています。

そういう中で、この雇用説明会どのような感じだったのか。

そしてもう一点、2点目は、説明会がありました。どこどこ企業って。この説明会するときだけではなくって、よく、——ごめんなさいちょっと話がころころ変わって申しわけないんですけども、お結び課ってありますよね、市役所。その中でよく聞くのは、まあどこでも聞く、マッチングという言葉がありますよね、マッチング。——マッチングって、まちこさんマッチングって何かなかったかなと、ちょっとぱっと今出たんですけど。——マッチングっていう部分で、武雄市がマッチングできるのか、法律上。

いや、こういう説明会は大丈夫ですよ。説明会は大丈夫です、合同説明会は大丈夫です。でも、通常のとくにそういう担当のところ、商工課が、あなたには、電話かけてこういうふうな雇用が今発生しましたんで、あなたちょうどいいかもしれませんよっていうマッチングができるのか、ちょっと以上2点、お伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

神宮営業部長

**○神宮営業部長〔登壇〕**

おはようございます。企業合同求人説明会のことで御質問を受けました。

今回の説明会につきましては、武雄市地域雇用創造協議会が主体となりまして、ハローワーク武雄と共催で開催をいたしました。

市内の企業に対しまして、より優秀な人材を確保するためにも、求職者を市内に限定せず、市外からも募集を行ったところでございます。また、求職者の業種の選択肢を幅広くするために、市内の企業のみならず、市外の企業の出展も募集し、開催をしたところでございます。

実施の状況でございます。

出展企業につきましては、46社でございました。内訳といたしまして、市内企業が38社、市外企業が8社ということで、出展企業の8割強が市内企業でございました。

それから参加求職者でございます。104名の参加をいただきました。その内訳といたしまして、市内の求職者50名、市外が51名ということで、約半々ということでございました。

先ほどありました商工課が中間役をとるということは、当然ハローワークを通していただければと思っております。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当はそのマッチングってやつができれば一番いいんですけどね。

説明会も順次いっぱいやっていくっていうのもありますけども、通常のとくにいつこういうのがありますかって、例えばぱっと求人が、市にも情報が入ってきた。こういうことを望んでる人がいらっしゃる。じゃあ電話して、そういうことがありますよ、何日が説明会って、そういうのができないっていうことですよ。できない。残念ですね。

じゃあ、できる方法を探しましょう。できる方法は何か。わかりません。わかりません、今ぱっと考えることができません。

例えば仮の話、武雄市が、——そうですね、今、例えば人材派遣会社ってやつはそうやって派遣する会社で法律上いいと思うんですけども、人材派遣会社さんにそういうことを、市がきちんと委託するとかですよ、そしたらそこできるからいいですよ、行政じゃなくて。そういうふうなマッチングを委託するとかですよ。

情報はうちが集めます、マッチングちょっとそっちでお願いしますとか、そういうふうな情報を、人材派遣会社ときちんと市が提携してやるとか、そういうのはちょっと可能なんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

神宮営業部長

○神宮営業部長〔登壇〕

今のマッチングにつきましては、持ち帰りまして、課内の中でも協議、検討させていただければと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱりそういうふうなところが大切だと思います。

今、就職も雇用も大切ですけども、企業側も人間が足りないという部分がありますので、ぜひマッチング、できなければそうやって人材派遣会社さんとかいろんな部分に、行政ができなければそっちのほうにお願いして、ハローワークと提携してやっていく。ぜひ御検討ください。

では、次の質問は、地域包括ケア。

これ何人かの議員の方々からも質問が出ましたけども、難しいですよ。予算が出るのは聞いてます。予算が出るのは聞いているけど、やっぱり難しいですよ。

高齢者と地域がお互い支え合っていくことで、その活動費に対して委託金が払われると。じゃあ、どういう活動だったら出るのと。ハードとかソフトあるんですけども、例えばハー

ドでもいいのか。

結構な、例えば1年間で300万円か400万円だったですよ、上限が、各町で。300万円か400万円。でも何に使って、——300万円あったらちょっと電気自動車ば買うて、市内の、例えばスーパーが少ないところだとそうやって回って、そういうのに使えないか。例えば人件費に使えないか。人件費っていうのは、そういうことをする人件費に使えないかっていうのもあります。

第2層共同体とかですね、——協議会か、協議体か、そういうこと、という言葉は聞きますけど、なかなかわかりにくいんですけども、今私が言いました、そういうことはできるのでしょうか。

まず1つ目です。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

おはようございます。先ほど質問されました地域包括ケアシステムの第2層協議体の補助金の件ですが、上限400万円というお金がございます。

これは第2層の協議体の中でのコーディネートをする方たちの委託金、あるいは研究や地域の資源を調査したり、そういうアンケートなどの情報収集、そういうソフトの部分に使える予算が、先ほど言いました上限の400万円となっております。

それ以外の資材費とかそういうのには利用できないというふうになっております。

**○議長（杉原豊喜君）**

18番牟田議員

**○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

本当に難しい、ソフトにしか使えない。調査に400万円。調査に400万円ってもう人件費みたいなもんですね。

だから、行政は、一つはこじつけっていう部分もあると思います。いろんな部分で当てはまるなら、そういうソフト部分、調査に必要なだからこのハードを買わなきゃいけないとか、そういう部分を持って行ってやっていただきたいと思いますし、——もう時間もあれです。で最後にお伺いしますけども、例えば今、朝日町だとセブンイレブン朝日店さんがいろんなところを電気自動車で配達されていますね。

例えば中山間地っていうのも、なかなかスーパーっていうのも、コンビニありますけれども、例えばコンビニがそういうふうにしてやる。上峰町だったですかね、ローソンと提携してやっている。ローソン調べたら、全国でそうやって提携してやっておられるんですね。

だから、例えばAっていうプランに、ケアマネジャーにやる、Bっていうローソンにもやる、そういうことはできるのか、これを最後の質問にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

先ほど議員さんの御紹介にありました朝日町のセブンイレブンさんですね、移動販売の車を導入されてやっていますけれども、どうしても人的配置ができないということで十分な機能がなされていないというお話は聞いております。

先ほどローソンさんの紹介もありましたが、今民間のほうでもちょっとした企業が独自にそういう訪問販売、各中山間地を回ってそういう販売をされておりますので、今後ともそういう企業等の紹介、あるいは調査等を進めて、先ほど議員が言われた地域とのマッチングができないかというのを、今後も健康課としても調査研究していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひですね、私も、知恵も髪の毛もない頭ですけども一生懸命考えてやっていきたいと思っております。

以上で質問を終わりますけども、これはこの前、市長に御試食いただいた武雄産、武雄の若楠ポーク、武雄のみそソース、橘産さがびより、これ、山崎鉄好前議員からの協賛でございます。

以上を紹介して、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で 18 番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10 分程度休憩をいたします。

休	憩	9 時 56 分
再	開	10 時 5 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7 番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7 番上田議員

○7 番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま登壇の許可をいただきましたので、これより 7 番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

次の、猪村大応援団が来る前に終わりたいと思っております。頑張ります。よろしくお願ひします。

それでは、早速質問に入ります。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで通告をさせていただいております。

主に内容はごらんのとおりであります。

早速質問に入ります。

まず、中心部の防災についてということで、去る7月の大雨、本当にたくさん降りました。とんでもないことになりまして——これは物産館付近の交差点の絵になります。真ん中に植え込みが映っておりますけれども、その横には縁石等々もあり、完全に縁石も沈むほどの冠水状態ということで、私も地元の消防団として出動をさせていただいたわけであります。

このように、もう交差点からもかなりの冠水状態でありまして、——これはうちの団員の方でありますけど、成人男性の膝までしっかりと水がたまるような状態になっております。

まず、市長にお伺いをしたいと思っておりますけれども、今回のこの大雨に対して、消防団の皆さんの活動に対し、改めての御見解をお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

私も消防団の訓練ですとか実際に活動されている現場、そういったところにも足を運ぶこともあるんですけれども、いつも申し上げておりますのは、消防団の皆さんは本当に自分の仕事を持ちながら点検をしたり、訓練したり、それこそ災害の対応、風水害であれば警戒活動をしたり、その対応を、それこそ夜を徹してしていただいていると。これは本当に地域の安心安全のかなめだということで、いつも感謝をしております。本当に心から頼りにしているところであります。

特に今、災害は、災害自体はいつ何どき起きるかわからない。さらに、風水害であれば、特に長期化をするというところが最近の災害では多いというふうに思っております。

まさにそういった長期戦の中で、先ほども言いましたけれども、自分の仕事がありながら、地域のためにということで本当に尽力をしていただいていると。本当に感謝しておりますし、これからもどうか地域の安心安全のために本当に頼りにしておりますので、よろしくお願ひしたいというのが私の気持ちであります。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番上田議員

**○7番（上田雄一君）〔登壇〕**

もうまさに、本当に市長が先ほど申されたように、日ごろの仕事をなげうってまでも地域の皆さんのためにということで、本当に頭が下がる思いであります。

ちょうどこのときも平日の夕方前ぐらいですか、お昼過ぎぐらい。本当に皆さん、仕事を途中で抜けてきましたっていうような格好で現場に出動いただいていたわけでもありますけど。

今回、その消防団の皆さんにとっても、ちょっとあれなんですけど、この写真をごらんいただければ、——ちょっと小さいんでわかりにくいんですけど、本来の車道はここなんですよね。この画面の左側のこの道が本来、直進の車道なんですけれども、ここが本当に、先ほどのこの写真ではありませんけど、もう成人男性の膝まで来るぐらいですので、車が冠水するわけですよ。

国道で、辛うじて勾配によってこの対向車線側の部分が何とか通れるっていうことで、まだこの、それでもかなりの引き波というか、私たちも長靴を履いて出勤しますが、車が通るたびに引き波で長靴の中まで全部水が入ってきて、結局、余り意味がないような状況なんですけれど。

今回この、何と言いますか、——これはもう完全に国道なんですけれどもね、我々は本来は消防団に対しては、こういう交通誘導の権限というのは恐らくないと思うんですよね。

ただし、でも市民の皆さんの生命、財産を守るという意味で、極力事故がないように、避けるためにこういう交通誘導をやっていただいて、車を破損させないように——ここでも何度も我々現場で見たことあるんですけど、車がそこを通って、いやもう無理やののって言うて、とめるのを聞かずに行かれて、結局水没して車動かんようになりましたっていうのが、やはり我々も過去にそういう経験があるので、こういうことをやっているんですけど。

今回、質問をしたところ、消防団の分団長会議でそういう話が今、挙がっているということです。今回質問はもう、ちょっとその経過を待ちたいなと思っておりますので、ぜひ消防団の皆さんが活動をしやすい環境づくりということで、ここにも分団長さんが2人いらっしゃると思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは次に、スポーツ施設の今後についてということで質問をさせていただきます。

先ほど、牟田議員の質問の中で大会誘致、スポーツ誘致、私も本当に同じ思いです。ただこう質問を聞きながら、武雄で何のスポーツ、何の大会が誘致できるかなと。多分、同じような思いで二人ともいるんじゃないかなと思っておりますけれども。

先ほど来の質問でありましたように、2020年には東京オリンピックが開催されます。2023年には国民スポーツ大会、今回から、——あ、違う。今度からかな、——国民体育大会が国民スポーツ大会ということで命名がされるということでありますけれども、これですね、ちょっとインターネット上の情報で古いんですけど、県内で2023年の国体の競技種目が明記されております。

先ほどの質問の中、話の中でも触れましたけど、武雄でじゃあ何の競技ができるんだろうというふうに考えたときに、もちろん武雄は立派な競輪場を保有しておりますので、自転車競技は武雄であるわけですが、聞き及んでいるところによるとゴルフも、今回、武雄でということで話があるということですけれども、ゴルフは民間ですもんね。民間の施設を利用してということになりますので、なかなか難しいなと思うところがあります。

何度も何度も質問をさせていただいているこのスポーツ施設整備計画、これはこれまで3回この質問をさせていただいておりますけれど、武雄市の方向性としては、総合運動公園とした一体的な施設で構想を持っているのか、競技ごとにさまざまな場所で独立した施設の構想を持っているのか、今回も話をしたところ、まだその結論には至っていないということです。

ですので、もうまずこれを、早急に方針を決定いただきたいなと思っておるわけでございます。もうあれから、初めてそれを質問したときからもう半年、改選前からやっていますんで、もう半年以上たっているんじゃないですかね。ぜひもう早期にこの方針決定をお願いしたいと思います。答弁が出ないと思いますので。

ただ、先ほどのその方針決定によって、今あるもの、白岩運動公園、例えば山内にもあります、北方にもありますけれど、そこら辺の位置づけがずっと今後変わっていく可能性もあるんじゃないかなと思うわけですよ、その方針次第ではですね。

ですので、まずその方針を早く決めてほしいと思う中で、それと同時に老朽化、ここに書いてあるように、今あるものをもっとできる限り使っていけるようにということで、ちょっと今回、質問をさせていただくわけでございます。

これはその白岩の運動広場です。運動広場のBコート、Bコートのホームベースの真上に立って写したところ、こういう状態でした。要は、もうずっと手がかかからず樹木が伸びきって、ライトが枝で隠れてしまっている状況がありました。

あそこはナイターで照明を使うとなると料金を取るわけですので、利用者さんからクレームが出るとやなかねってということで話をこう、相談をしていたところ、担当課のほうで早急に対応をいただいて、きれいに伐採をしてもらっています。

ですので、多分これでもう夜の利用は何の問題もなく照明がちゃんと当たって使えるわけでありまして。

そういう中でも、競技場の、これは競技場の芝生の写真です。夜撮ってみるとよくわかるんですけども、もうまあ、やはりぼこぼこですもんね。

ただこれも、体育協会ですか、大変な御苦勞で芝生の養生を取り組んでいただいております。芝生の養生期間は利用を制限して、極力使い勝手がいいようにということで一生懸命やっておりますけど、なかなかこういう状況でありまして、過去にもこれで何度もけがをされたりしたことも、私もよく見てきました。

今回、消防の操法大会も雨によって急遽、会場をこの芝生の上で、雨上がりだったんで変えましたけど、そこでも私が聞き及んでいる限り、この段差に対応できずにちょっと肉離れしてしまったとかってというような話も聞き及んでおりますので、ぜひこれはですね、もういい加減、人工芝化の検討をしたほうがいいと思うわけでありまして。

そういう中でちょっと質問に入ります。

この白岩競技場、皆さんこの看板ごらんになられたことありますよね。市長、トリムコース行ったことあんさあですか。トリムコースを私もちょいちょい行くんですけど、ちょいちょい、——よく行くんですけど、この看板ですね、これを見ていただければわかるんですけど、スタート地点から300メートルっていうこれは何となく見えるんですよ。ただ、これも全然見えない看板で、さび、汚れ、腐食等々で全然見えません。そもそも、このスタート地点がどこなのかという明確なところも、私、見つけきらんやったとですけどね。

それと、また歩いていると、たき火厳禁という看板はあるんですけど、この木に斜めにこう寄っかかったような感じで置いてあったんですよ。

これはまだちゃんと読めます。よっぽどこれを雑巾で拭こうかなと思ったんですけど、これ下手に拭いて字が薄くなったら、勝手にそういうことをしたらいかんかなと思ってちょっと何も手はかけなかったんですけど。

これもですね、竹林内立ち入り禁止だと思います、見えている分の文字から判別してですね。ただ、この竹林内立ち入り禁止もどこからどこまでが通路で、どこから先が竹林なのかというのなかなか判断しづらいような状況でありました。

一方で、この一番上の展望台というんですかね、あそこは。競技場脇の運動広場と競技場の脇を、間の通路をずっと一番上に上がったところですね。私この展望、眺望が本当に好きなんですよ、武雄のまちの中が一望できるんで。本当に好きなんですけど、そのトリムコースの中でも、ここにもですね、ほかのところにもあずまやがあるんですね。

ただ、あずまやも角度を変えても何も見えないぐらいもう木がうっそうと茂っております。この階段等も落ち葉でかなりあれですけど、ここはもう全部オルレのコースでもあるわけですよ。

ここもこういうベンチがあるんですけど、この先は白岩球場がちょうど見えるんですけどね、ここも間を見計らったようにしてやったら何とか見えるんですけど、そこも眺望なかなか見づらいなど。

またここですね、このちょうど白岩体育館の真裏ぐらいになるんですけど、ため池があります。農業用水で使っているということなんですけど、ここも私一人でふだん行くんですけど、ちょっとどきってするくらい怖かですもんね、こんな感じで。木もうっそうと茂っていて、泥、水面もこう、いろんなものが浮いて、中から生えてる状態ですかね。ですので、ここもちょっと怖いなどは思うんですけど、そういうところもあって、あとはもうこの一番上の展望台ですね、ここを見るところの展望台のところもあずま屋があって、これはまあいいんですけど、ここに水道があるわけです。

水道も、私ことしの真夏も結構行ったのであれなんですけど、この水道も昔のこう、アダプターと言いますかね、蛇口の、こう、かちゃっとするやつがないと水道出ないんですよ、どっちも。こっち側の水道も、こっちの水道も。でも、トイレを見ると、こういう感じでポ



タンを押すと何秒か水が出るっていうような格好になっています。

ここもいろんなところで、全く手がかけられてないんじゃないかなと思って、利用者にとっては本当に優しくないような感じだなと思います。

ですので、まず、ことしのように暑さが本当に厳しい中でトリムコースを歩いていると水道があって、ちょっと水をとったときもこれだと全く飲めないわけですし、ここら辺でオルレコースでもありますし、健康維持の管理のためにこのトリムコース歩かれている方も結構いらっしゃるわけですね。

ですので、ちょっとそこら辺を踏まえて、白岩運動公園のここら辺の維持管理をぜひちょっと改善してもらうわけにはいかんかなというのをまず質問させてください。

**○議長（杉原豊喜君）**

庭木まちづくり部長

**○庭木まちづくり部長〔登壇〕**

おはようございます。トリムコースの案内看板につきましては、議員御指摘のとおり、色落ち、中には全く見えない、それから腐食等、老朽化がかなり進んでいる状況でございます。

トリムコースは昨今の健康ブームから多くの御利用をいただいているところでもございますし、先ほど議員から言われましたとおり、九州オルレ武雄コースの一部でもあります。国内外からも多くの観光客に御利用いただいておりますので、各種看板及びトリムコース内の距離表示等の看板につきましては、関係部署と十分協議を進めながら、今後、改善計画を立てていきたいというふうに考えております。

あずまや周辺、それから、階段の落ち葉等につきましては、これまでもそこまで管理ができておりませんでしたので、先ほど申しましたとおり、多くの利用者がおられます。安全対策のためにも落ち葉の除去、それから、あずまや周辺の伐採につきましても、景観上、それから、防犯上もありますので、伐採を行っていきたいというふうに考えております。

ため池につきましては、急な浄化とか何とかっていうのはなかなか難しいと思えますけど、その辺は研究させていただければというふうに考えております。

それから最後に、展望広場の水場につきましては、以前にいたずら等がありましたので、蛇口のハンドル等は撤去する状況ではございました。ただ、先ほど議員言われましたとおり、暑い中での利用される皆様の健康等を考えれば、熱中症対策等利便性を向上するためにも、利用できるように改善していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番上田議員

**○7番（上田雄一君）〔登壇〕**

ありがとうございます。ぜひお願いします。

それでは次に、雇用の将来像ということで通告をさせていただいておりますけど、これは先ほどの質問と丸かぶりでありますので、——この求人説明会ですね、減少する労働力としての確保、本当に今もう民間の企業の皆さんも本当に頭を悩まされています。売り手市場というか、そういう中でありますので、ちょっとここら辺の実績は先ほどの答弁にもありましたけど、それと同時に、今度はもう創業支援セミナー等々もまた計画をされているようでもありますので、ここら辺でもし答弁がちょっとプラスアルファ等々もあればお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

神宮営業部長

**○神宮営業部長〔登壇〕**

先ほど牟田議員の答弁で申し上げました。

今後の展開でございますが、10月に障害者雇用に関する事業者説明会、それから、介護と医療の福祉合同求人説明会、12月に働きたいシニアのための合同就職説明会、明けて1月に第2回企業合同求人説明会を開催する予定になっております。

ほかにも各種説明会やセミナー等を用意しており、人材の掘り起こしを行い、雇用のマッチングの機会を創出してまいりたいと思います。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番上田議員

**○7番（上田雄一君）〔登壇〕**

先ほど答弁ありましたけど、今の答弁やったらモニターば使って何月何日に何の説明会って、やっぱりそうしてやったほうが優しいんじゃないかなと思うんですけどね、私は。

ぜひ文字で見れるように、よろしくをお願いします。早口だとメモが追いつかないので、よろしくをお願いします。

それでは次、合同説明会の中でもちょっと思ったんですけど、これはキャリア教育、今、中学校2年生で、——うちも子どもがおるもので、キャリア教育よく行くんですけど、中学2年生で職場体験っていうような格好やられてますけど、もっとやり方を煮詰めるというか、検討すればもっとやり方がよくなるんじゃないかなと思うんですよね。

やっぱり、中学1年生でいろんな職場の人の話を聞く授業があり、それから2年生になったら実際の現場の職場体験をするというような中で、そういうところから、やはり武雄で働きたい、武雄でこういう仕事に就きたいというような、もっとこうやり方があるんじゃないかと。

保護者から話を聞いたのが、結構、職場体験に行くけど、お客さんですもんねって。行っても掃除ばずっとしてとか、何かこう、本当に職場体験だったら、極端な話、もっと何日も、1週間なら1週間、2週間なら2週間、しっかり仕事ばして、どういう仕事かというのをし

っかり把握できて帰ってくる。必要とあれば賃金を払ってでもいいんじゃないかって、その仕事をしたものに対しての対価を、っていうような話もいろんところで出ました。

ぜひ先ほどの企業説明会とキャリア教育とこう、うまいことコラボできないかなと思えますんで、ぜひそこら辺も検討をしていただきたいなと思っております。

次に、入札制度のあり方について移ります。

入札制度についてはおおむね一般競争入札か指名競争入札です。

これも市民の皆さんの声から質問をさせていただいておるわけですが、指名業者決定について、まず質問を行いますけれども、我々この議会の中でも委員会、——前回、私は産業建設のほうにいましたので、その委員会の席でも本当に何度も何度も、ここにいる議員の皆さんも、何度も、何度も、口酸っぱく言っているのが地元業者優先ですけれども、その一方で価格の部分というのもあるという話もちらほら耳にするわけでありまして。

ですが、改めてこの地元業者優先を筆頭に、まずどのような手法で実施をされているのかをまず伺いたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

指名競争入札をする場合ですけれども、入札参加資格申請、いわゆる指名願いを出された方の中から市内事業者の方を優先して指名をしている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

指名をするときにまず地元を、そこを優先して地元をとということですね。

そしたら、今回ですね、——ちょっと例えばの絵を出すわけですけども、このペンをちょっと大量に購入しないといけないということで、物品購入のときの入札でいけば地元業者優先というのがまず大前提であるわけですけど、その中で、例えばこういう感じで仕様書があるわけですよ。メーカーがどことか、水性だったり油性だったりとか、この写真でいけば3色の分で赤、青、黒ですね。それでまあ、金額があると思います。

これで、地元の指名業者から、こことこことこってというような格好でするわけですけど、これと全く同じものは用意できませんと。これに相当するものをとということで、例えばこの絵ですね、これも全く一緒ですよ。3色の水性の、メーカーはちょっと違うんですけど。

こういう場合ですよ、こういう場合に、必ずこのペンではないとだめっていうときと、これではなくてこっちでも対応できます、そういう相当品で対応できますというようなところの、できる場合と、できない場合の判断というのはどのようになっているのか答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

物品の同等品の判断でございますが、これは財政課に購入を依頼した課、その物品を購入する担当課の判断によります。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

いろいろなケースがあるわけですね。

そういう中で、相当品の同等品申請を出していただいて、担当、財政課に発注を出された発注元に確認をしてってということになるわけですね。

その中で、市民の皆さんの声の中に、なかなかその類似品、相当品を認め——認めないってちょっと書いてますけど、——認めてくれないっていう声が私のところに寄せていただいたわけですよ。

類似品、相当品がなかなか地元業者で対応できんとやなかかというような声をちょっといただいたので、先ほどの答弁からいけば、相当品の申請をしていただいて、それでオッケーかどうかの判断をされるってことですが、実際はでも、市民の皆さんの声を、こういう声をいただくわけでありまして、この声に対しての改めての見解をいただきたいと思うんですよ。

ただ、私も営業努力も一個そこにあると思うんですよ。私も、民間企業の営業をしたことがあります。一生懸命自分のところの部品を設計の皆さんに営業をして、やっと自分の部品を採用してもらいました。採用してもらって設計図の中に入り込みました。そいぎ資材のほうに行って、資材のほうと見積もりの折衝をしていると、いや、相当品もあんもんね、類似品もよそのメーカーもあいみつばとるけんがということで、やっぱり当然なるわけですよ、資材のほうですね。

ひっくり返されたり、そのまま注文もらえるようになったりっていうのがいろいろあるんで、そういうところもひっくりめると本当に難しい問題ではないかなと思うところもないことはないんですけど、実際こういう声があるので、ぜひこれについての市の見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

仕様書の例示品には、市が求める機能や仕様に合った物品名、製品番、型番が例として掲載されているものでございます。

例示品を取り扱っていない場合でも、それと同等の規格や品質、それから、性能を備えた

ものを同等品申請していただいて、先ほど申し上げましたとおり、担当課が認めれば、判断すれば応札が可能になってまいります。

いずれにいたしましても、市内の活性化のためにも、特殊技術など考慮すべき特別な事情がない限り、市内事業者の方に優先して物品の取り扱い、納入をしていただきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番上田議員

○7 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうぜひ地元。地元、地元、地元とお願いしたいと思います。

それでは、もう最後の——どンドン行きそうですね。小松政の約束 10 項目ということで、市長は4年前にこのような市民の皆様と交わされた約束、マニフェストといいますか、約束といいますか、公約といいますか、このような提示をされております。

まず、市長にお伺いしたいと思いますけれども、今期におけるこの公約と言っていいのか、公約、この10項目、これについての達成度をどのような見解をお持ちになられてるか、答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今モニターに出ておりますこの10項目についてですけれども、例えば一番上ですと、休日急患センターでの365日の小児医療の体制を実現したと。

あと、2つ目であれば、病児保育これについて、テトテですね、ことし4月によりやくスタートすることができた。

3つ目であれば、競輪場公園をつくったということで、そのほかいろいろ細かく言うとかたくさんありますので、すべてを申し上げることはここではしませんけれども、全体として、いろいろな、さまざまな分野でおおむね達成をできたというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番上田議員

○7 番（上田雄一君）〔登壇〕

おおむね達成できた、何パーセントぐらいでしょうかね。

まず、先ほどの答弁にもありましたように、24時間365日の小児医療体制を目指しますということになっています。

確かに365日は達成をできているようでありますけど、残念ながら、24時間の分は達成をしていないという見方が正しいのかなと思っておりますけど、ただ、私もこの24時間を達成するための市当局の動きっていうのも理解しているつもりでもありますので、おおむね一生

懸命やっただいていてるんだなと思っておるところであります。

次に、その市内での病児保育テトテですね、テトテさん、川良に、——川良、小楠、どちらだったっけ。小楠ですね、あそこは。——病児保育、本当に武雄こども園の皆さんに頑張っただいて、この病児保育実施へことしの4月からですね、今状況としてはこういう状況です。4月10人、5月9人、6月29人、7月26人、8月20人で、8月までで延べ94人利用されているそうです。

この運営されている皆さんと話をさせていただいたとき、本当に大変そうです。1人預かる中で、2人の職員を配置せんばいかんもんねとかいう話も聞いてて、ただし、でも我々がせんと、これはもう使命感でやっていますっていうような話を伺いましたので、本当に頭が下がる思いです。

次に、遊び場や公園、家族で楽しめる遊び場や公園をつくりますという項目も、これが武雄競輪場の公園ですね。BMXのミニコースも設置されております。

この公園の利用者どの程度ですかということで質問通告をさせていただいたんですけど、公園のほうはちょっとさすがに利用者のデータはとっていませんということでした。ただし、このBMX場のデータはとっていただいております、4月1,362人、——これは延べですよ。5月1,648人、7月1,324人。

7月、8月は多分この猛暑で、幾ら何でもみたいな感じなのかなと思いますけど、それでもこの5カ月間を見ても、述べて5,572の方が利用いただいているということで、本当にこのにぎわいも、遊び場、公園を設置することによってのにぎわいができているのかなと思っております。

今回、この小児医療であったり、病児保育、公園、教育改革はもう、——ちょっとまあ、細々したのは避けますけれども、——子育て支援といった子どもたちの、子育て世代としてのまたいろんなところ要望等もさせていただいてきましたけど、この辺についてはおおむね本当に丸だと思っんです。よくやっただいていてるなと思います。

一方で、固定資産税など市民の負担軽減に、固定資産税など市民の負担軽減に努めますという項目になると、ちょっとどうなのかなと。私が実感するほどの効果、達成度は低いんじゃないかなと思うわけですけど、ここら辺について答弁をお願いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

市民負担の軽減については、特にやっぱりお困りになられている市民の皆さんを中心に負担軽減をどうやって図っていけばいいかということを考えまして、高齢者の方とか、ひとり家庭の方に、一番負担の軽減が進むようにということで、下水道の料金の見直しをさせていただいたところでもあります。それによって、ひとり家庭のなかなか苦しい皆さんの負担を少

しでも和らげるというところに取り組んだところでもあります。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうことですね。

そしたらこの書き方は、固定資産税を大きくするんじゃないしに、市民の負担軽減を大きくとったら今の答弁に納得、なるほどとは思うわけですけどね。

それ以外にも、いろんなところがあると思います。今回、さきの議会のほうで市長も出馬表明をされているわけでもあります。

おおむね達成をしたという、この小松政の約束の部分。ただ、先ほど言っているようなところもあります。

そういうところで、2期目の出馬意向をされた中では、ぜひ公約提示を私からお願い——お願いと言ってはなんなんですけど、何を、いつ、どのような財源を使ってやっていきますよと、前は1期目で、今回もう2期目の挑戦をするということですので、ぜひここを明確に提示いただければ本当にいいなと思うわけでありまして、お願いをして私の一般質問を終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で7番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、15分程度休憩いたします。

休	憩	10時41分
再	開	10時55分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番猪村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆様こんにちは。午後の予定でしたけれども、繰り上がりまして午前中、一般質問に……（発言する者あり）はい。ありがとうございます。

しっかりと今回も思いを込めて、一般質問をさせていただきます。

きょうは9月11日、9.11、あれから17年という日にちがたって、そして、昨日来、災害についての一般質問もたくさん議員さんたちから寄せられております。

北海道の大地震、私も7月の下旬に北海道、勉強をさせていただきに参りまして、液状化をしている清田区にも勉強させていただく機会をいただいたお宅がございます。電話をかけ

ておりますが、まだ通じておりません。避難をしてくださっているというふうに願っております。

また、大阪の北部地震、それから西日本の豪雨災害、また、後になりましたけれども、武雄市におきましても7月6日、豪雨の災害、先ほど上田議員さんが写真を出してくださいましたけれども、実は私も朝日の道路のところで、市役所を5時半過ぎに出て帰宅をしている途中で車をどんぶらこつつかってしまうということになりまして、大変怖い思いをした一人でもございます。

まちの方が、高橋駅の前で、もう曲がってUターンしんしゃいと言ってくださって、そこで渋滞の中をじわじわと皆さんとともにUターンをした。とても、——初めてです。怖い思いをしました。もうパニックになりそうでした。手に汗を握るということはこんなことかなというふうに、選挙のときでもこういった緊張感が、何か怖い、そう思ったことはないんですけれども、こうやってもう本当に命にかかわるかなというふうな思いをしたことは初めてでございました。

そのときに床下浸水、床上浸水をされた方々も多く市内でいらっしゃいます。本当に一日も早い復興と、それから大きな災害で命をなくされた方々の御冥福を心からお祈りを申し上げて、私の一般質問をさせていただきます。

私の今回の一般質問でございますが、安心・安全なまちづくりについて。

避難所・体制の整備状況について。

多様な災害の対応について。

2、教育について。

1、図書館・図書室について。

それから2、司書さんの配置について。

それから3で、学びあいのまちづくりについてでございます。

1つ目の一般質問、安心・安全なまちづくりについて。避難所・体制の整備についてでございます。

先ほども申し上げましたけれども、7月6日の市内でも恐ろしいぐらいの大雨。そのときに、あと3、4時間もこの雨が降り続いていたら、岡山県の真備町のようなひどい災害に見舞われたかもしれないというようなことを担当課さんから聞き、身の毛がよだつ思いでございました。

岡山の真備町の皆様、本当に怖い思いをされた方がたくさんいらっしゃると思います。

そういった中で、この武雄市の、避難所の体制はどうなっているのか、そして、また近年このような災害が今どのように起こっているのか、避難所は大丈夫なのか、何カ所あるのか、そしてそこが大丈夫なのか、そういったことを最初にお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）



水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

私からは、7月の豪雨災害の状況について説明をさせていただきたいと思います。

モニターお願いいたします。

(モニター使用) これは平成21年度から24年、それから6月20日からの西日本の大雨、それからこの前の7月の九州北部豪雨、それから、――すみません、間違えました、29年7月の九州北部豪雨、それから30年7月、ことし7月の豪雨について表示をしているところでございます。

ことし7月5日、7日にかけての豪雨災害の状況ですが、武雄市はもとより佐賀県にも初めて大雨特別警報が発令をされました。これによりまして、橘町と北方町に、武雄市では初めて、避難情報では最高度の避難指示を発令したところでございます。

指定避難所には、これまでにない数の99世帯、209名の方が避難をされておりますし、自主的避難対応として地域の避難所も多数開設をしていただいたところでございます。

また、高橋排水機場のポンプも停止されましたので、多数の家屋浸水も発生しまして、床上浸水18戸、床下浸水87戸の被害が出ております。

幸いにも人的被害の報告はございませんでしたけれども、東川登サービスエリア線など41カ所の土砂災害が発生したといった状況でございました。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

今の説明でもありましたように、近年ないぐらいの大災害が起こっております。北方町におきましては平成2年の大水害、それ以来ではなかったかなというふうに思っております。

気候変動の影響もあるやもしれません。このような災害が日本各地で起こっている。

地震とか大きな土砂災害、そういったものには見舞われておりませんが、有識者の方のコメントなどを見ますと、今起こっていないところが起こるかもしれない。なので、しっかりと体制をとってほしい。ないからないではない。

先ほど牟田議員さんもおっしゃいましたけれども、あると思って想定をしておく、そういったことがこれからとっても大事になってくるんじゃないかなというふうに思っております。

また、住民の方からよく聞かれることでございますが、避難所指定になっているけれども、避難所に行くときの道が早くつかってしまうとか、土砂災害区域に避難所が指定されている、そういったような声が聞こえてまいります。

今、一体こういった整備についてどのような改善をなさっているのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

**○水町総務部長〔登壇〕**

土砂災害区域や浸水区域に避難所はあるのかといったお尋ねかと思ます。

平成 28 年の熊本地震を受けまして、土砂災害警戒区域内にあった橘町、朝日町、西川登町の 3 つの公民館につきましては、避難所から除外をいたしました。

浸水に関しましては、周辺が冠水してしまう避難所が橘小学校、北方小学校、北方公民館など複数ございます。ただ、施設そのものが冠水をいたしませんので、大雨や台風の予報によって、自宅が孤立や危険にさらされる前に避難を希望される方もおられることから、まず安全が確保できる拠点施設として避難所指定をしている実情がございます。

これにつきましては、国、県の関係機関にも相談をしながら、また、防災会議等を通じて適切な指定の判断をしてまいりたいと思ます。

**○議長（杉原豊喜君）**

3 番猪村議員

**○3 番（猪村利恵子君）〔登壇〕**

橘、北方、私も一般質問させていただいておりますが、調整池を早く、いち早くつくっていく、そういったことも今、進められております。また、進捗状況、そしてまた新たな提案など、次の議会で私もまた一般質問をさせていただきます。

議長、市長ともまた議論を深めていきたいというふうに思っているところではあります、——それから、今回の避難の放送、避難してくださいという放送のときに、一時避難、自主避難の放送ではありましたけれども、布団や食料を持って避難してくださいというような、放送があったと。

布団まで持っていかなばいんぎというような、そがんやぎねというような声をいただいたところでございます。

とにかく命を守ると、何が何でも、一時避難であろうがとにかく早う逃げておくんさいと、もう布団どまよかですばいと、そういうふうなことで命、生命、財産を守る市長の役目、そういったところの見地からも、布団どまいらんですばいってああけん、とにかく早う逃げてくんさいと、そういったことで放送ができなかったのか、そこら辺をちょっとお尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

水町総務部長

**○水町総務部長〔登壇〕**

あくまでも自主避難をされる際の短期間の最低限の持参品といった趣旨で放送をしているものでございますが、内容につきましては、再度検討をさせていただきたいと思ます。

**○議長（杉原豊喜君）**

3 番猪村議員

### ○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

放送も考えていただくということもあると思いますけれども、秋田市に視察に行かせていただいたときに、防災の研修会も秋田市さんでさせていただいたんですけども、どんなですか、自主避難のとき布団や食料を持って避難してくださいとおっしゃいますかと言ったら、いや、そがんことは言いませんと。

そしたら、秋田市はどんなされとるですかって聞いたら、30万都市でもありますので、市内4カ所に、東西南北に倉庫を設けて、そこにしっかりと備蓄がされておって、そこから持ち出しをするというような取り組みをされているということでありました。

市民の数には全く関係ございません。

先ほどの話も、議員さんの話もありましたけれども、何があるかわからない。とにかく、避難の訓練をしているところもつかるともしれない。とつても、今までと想定外の災害がいつ起こるかもわからない。あと3、4時間降り続いていたら大災害になっていた。そういったことも鑑みて、しっかりと避難所の整備をとっていただきたいというふうに思っております。ぜひよろしくお願い申し上げます。

それから、――すみません。これは先日、9月2日に災害対策本部運営訓練が行われました。北方町の災害を想定して、まず7時から市役所で、4階で市長を中心に消防団それから自衛隊、さまざまな方たちが集まって、焼米地区、大渡地区を想定して、まず、ここで緊張感をもった話し合いがなされたことを、私は非常に、ここを見させていただいて、この場にいさせていただいてよかったなというふうに思いました。

しかしながら、こういったことが起きてはならないんです。起きてはならないけれども、備えておく、こういった話をしっかりしながら皆さんと連携をとって、市民の皆様の命を守る訓練がなされているということを皆様方にも知っていただきたい。

そして、4階にこういう部屋ができた、新庁舎にできたということで、市民の皆様にもぜひ見に来ていただいて、こういった訓練が行われている、皆さんの命は大丈夫だということで、皆様方にもっとこのこういった場を啓発していただければなというふうに思っております。

また、この後こういった、8時から障がいをお持ちの方の作業所に消防団から来ていただいたり、これは大ホールで講演会があったんですけども、河川事務所の方がお話をしてくださった。大ホールでたくさんの北方の方がお集まりいただきまして、お話を聞いていただく、こういった機会も本当に大事だなというふうに思いました。啓発には大変役に立つような取り組みじゃなかったかなというふうに思っております。

しかしながら、来られる方々、参加者の方々が非常に、毎回こういったことに参加をされる方と、なかなか参加をされないという方々の、ちょっと格差があるなというふうに思っております。こういった格差の解消、なかなか、――すみません、先に、失礼いたしました。

これは、この災害の訓練があつているときに、北方の公民館の中で防災グッズを赤十字の方が展示をされておりました。私も欲しか、売つてああとね、ここで聞かれていらつしやいました。いや、きょうはこいは売られんとですよつて、見てもらうだけですつておつしやつておりました。

こういったことを、ぜひこういった訓練のときだけではなくて日ごろから、例えば市役所1階の市民ホールに防災グッズのコーナーを設けるとか、北方の、例えばここは公民館ですけども、ほかの各町の公民館、そしてきょうはサロンの代表をされている方も来ていただいておりますが、そういった自治の、地域の公民館にこういった防災のグッズを展示をして、そして、自分の身は自分で守る、そういった見地からも目にさせていただく、そして手にとつていただく、はたまた購入をしていただく、そういったことができれば、日ごろから防災意識が自分で。自分で買ったかつていう人もいらつしやいます。

また、以前、一般質問をさせていただきましたけれども、エリアトーク。大雨のときに聞こえない、放送が聞こえない、そういった方が、私はもう自分で、自費でエリアトーク買ってよかけん、家につけときたか、そういった方もいらつしやいました。それも一般質問をいたしました。

そういった方のためにも、ぜひ皆さん方の、市民の皆様がたくさん集まられるところ、そういったところでこういったグッズの展示、はたまた販売、そういったところができないかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

防災グッズを実際手にとつていただいて確認をしていただくということにつきましては、非常に防災意識の啓発のためにはよいことだと思います。

今後、イベントあるいは各公民館、あるいは各町の協議会等の機関とも連携をしながら防災グッズの普及に努めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

本当に自分でそろえたいけれども、――トイレとかここにあります。非常用の3リッターの吸水バッグ、こういったのは大型スーパーに行ったらありますよというふうなことを言われておりました。でも高齢者の方は、なかなか大型スーパーに行くことができない方もいらつしやるとおもうんですね。

市役所、それから地域の公民館にこういったものがある、そういった取り組みをぜひして

いただいて意識の啓発に、自助努力をしていただく。そして自分の身は自分で守る、そういった見地からもぜひお願いしたいなというふうに思っております。

それから、次なんですけれども、もう一つ、この防災訓練なんですけれども、防災訓練をしますよ、総合訓練をしますよって言うても、なかなか集まってくださる格差がある。もう決まった方々が、——区でそれぞれやり方があると思うんですけれども、来てくださる方はいいんですけれども、なかなか世代、幅広い世代で来ていただくことがちょっとなかったんじゃないかなというふうに思っております。

例えばお子様連れで参加をしていただくとか、そういったことを思ったときに、人が集まる行事、例えば町民運動会とか学校の運動会、地域の行事、そういったときに、例えば町民運動会とか学校の運動会でしたら、防災を、自分の身は自分で守る、地域の人は守るという競技、種目を入れる。

例えば竹を2本、あと毛布、人が乗るのは危ないから、カボチャでもよかし、冬瓜でもよかと思うとですよ。そがんとを、よーいどんってして、竹で担架をつくって冬瓜を乗せて走る。そして、勝った人は冬瓜を持って帰れるとか、そういった防災の見地で競技に加わる、そういったことをやるというのも一つのアイデアじゃないかなと。

そしてそこに商品を。ティッシュペーパーもよかです、うれしかです。ラップもうれしかです。そいばってん、この防災トイレ、この防災グッズを商品にするとか、そういったことでぜひ啓発していただきたいなと思うんですけれども、こういったことを、お考えは。

市長さん、竹に担架つくって冬瓜を乗せて走る、ぜひ市長さんにも加わっていただいて、みずから防災の意識を高めていただきたい、お子様たちと一緒に高めていただきたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

防災グッズの商品を、商品としてやる、差し上げる、お願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

冬瓜より人を乗せたほうがいいかなというふうにも（笑い声）思うんですけれども、今それぞれの各町の運動会で、例えば消防団の方が操法の披露をしたり、あとはホース巻きリレーというのをやったり、そういったことをされていることがそういった防災とか、やっぱり消防団は守ってくれてるね、さらにはやっぱり地域の安心安全大事だよねという意識にも、私はつながってるのかなと思っています。

防災、何か難しいところから入ると、どうしても人がなかなか来ないので、発想として何か楽しいところに、楽しみながらやると、結果、防災の知識も身につくという猪村議員の考え方には賛同をします。

運動会とか、それぞれまちの公民館とか体育協会、そういったところでもされていますし、

まさに議長は山内の体育協会の会長でもありますので、皆さんにぜひそのあたりはアイデアとして、おつなぎをしたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

市長さんもおっしゃいました消防団の、——数日前、上田議員さんともちょっと話したんですけれども、昼休みに消防の訓練を見てもらうとか、しよるよとおっしゃいました。いや、いいなと思いました。

それから女性消防団の活動なんかですね、そういった行事を、——防災の訓練を新たにするっていうことも大事ですけれども、地域の行事にあわせてそういったところを取り組んでもらう、楽しく参加をしていただいたり、啓発の場を設けるということも、ぜひ水町部長、お願いしたいなというふうに思っております。

また、議員さんの中でも消防団に参画をしてくださっている方々、また、いろんな意味で防災活動に携わってくださっている方、体協の役員をされている方がこの中にもたくさんいらっしゃいます。

ぜひとも、こういった取り組みから、自分の身は自分で守る、そして地域の方も私たちが何とかできるんじゃないか、そういった見地に共助を考えながら必然と自助の勉強にもなっている、そういった取り組みをぜひ考えて、啓発。それから、私たちも必死になって自分の身は自分で守るというような取り組みをしっかりとやっていくというようなことをやっていきたい、地域の方々とともに真剣に考えていきたいなというふうに思っております。

女性の団体で役員会を開いたときに、公民館に泊ってみようか、もう今、何かあったって言うて、泊まって帰らんぞ、旦那さんもびっくりしんさあよねとか言うて、いや、そういつて、いつ何時、こうやって話をしているときにでも災害が来るかもしれない、そういったときに備えるといったことは大事かなというふうに思っております。

即座に、何も言わんで泊まることはできんかもしれんですけれども、そういった取り組みをぜひ地域でもやってくださいというような啓発をしていただきたいというふうに思っております。ぜひよろしく願いいたします。

それでは次、多様な災害についてでございます。

武雄市は、原発災害の折に伊万里市からの避難の方を受け入れる避難所の開設の指定があると思いますが、このような現状を今どのように取り組まれているのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

原発事故を想定したときの伊万里市との関係ということでお尋ねかと思えます。

〔3番「はい、はい」〕

平成24年3月に締結されました佐賀県・市町災害時相互応援協定と、同年10月28日に締結いたしました伊万里市と武雄市の災害時の応援協定に基づきまして、平成27年4月1日、原子力災害時における住民の広域避難に関する覚書が武雄市と伊万里市の間で交わされております。

玄海原子力発電所から30キロ圏内、いわゆるUPZ圏内にある限界値を唐津市、伊万里市の方は、事故が発生した場合には避難計画やこれらの協定等に基づきまして、佐賀県内の各市町に避難されることとなります。伊万里市から避難される方々を武雄市、鹿島市、嬉野市、有田町、太良町で受け入れることとなっております。

佐賀県が作成しております原子力防災のてびきによりまして、広報はされておりますけれども、武雄市内での受け入れ箇所など十分な周知ができておりませんので、再度、区長会等を通じて、改めて周知をさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

昨年度になりますか、伊万里市の盛議員さんが、武雄市内の自治公民館を北方のほうで見せてほしいとおっしゃることがありまして、私も全く知らないことがたくさんございましたので、勉強させていただきました。

私の地元の木ノ元公民館と、そして馬神地区がございますが、その公民館で、たしか2つの自治公民館で107人の受け入れということになっていなかったかなというふうに記憶しております。到底、無理な人数でございます。

そういったことで、近隣の、その自治公民館の周りにお住いの方にお尋ねをしても、そがんやったって、知らんやったって、伊万里から原発の事故のときは来られるとねって、ああ、知らんやったって、そがんときは一生懸命せんばいけんねってというふうに馬神の公民館のすぐそばに住んでいらっしゃる方などはおっしゃってくださって、周知がなかなかできていないのかなというふうに思っておりました。

このような多様な災害に備えるということでございますので、しっかりと県とも連携して、避難所の見直し、そして安全な受け入れ。武雄に住んでいる方々の命を守るということからも、しっかりと災害の避難所の整備をしていただきたいというふうに思うところでございますが。

もう一つは、多様なというところで、例えば授乳中の方、女性ですね。それから、体調の悪い方、妊娠をされていらっしゃる方、また、小さいお子さんでも障がいをお持ちのお子さんをお育てされている方もいらっしゃいます。

そういった形で、避難をされてきたときに、――高齢者の方ももちろんでございます。福

祉避難所が開設されることは想定されますが、それまですぐ逃げなければならないときには、地域の公民館が一番避難所になるというふうに思っております。

そういった弱者、災害弱者と言われるような方たちのための避難所の開設、そういったところもしっかりと考えていただきたいなというふうに思っておりますが、今どのような状況でございますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

指定避難所には高齢者の方、あるいは障がいをお持ちの方、妊産婦の方も避難されることが当然想定されるわけでございます。昨日、11番議員さんにもお答えいたしましたけれども、これらにつきましては、庁内連携をして対応マニュアル等を作成してまいりたいと思います。

施設的には和室の活用、あるいは個室の確保などが必要であって、公民館などでは何とか対応が可能なのかなとも考えますけれども、加えまして、先ほど御紹介ありました福祉避難所の手配、あるいは保健師、看護師の配置なども、あらかじめ考えておくべきことかなと思っております。

身体的な弱者の方、要配慮の必要な方につきましては、支援できるように今後ともしっかりと考えてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

それに加えて部長、先ほど牟田議員さんのお話で観光の話が出ましたけれども、今回の北海道、それから関空の封鎖、外国人の方とか、あと観光客、武雄市の営業部長にお尋ねをいたしましたところ、年間180万人の観光客の方が武雄市にも訪れていただいております。そういった方々への周知、徹底、ぜひお考えいただき、避難所を開設していただきたいというふうに思っております。ぜひとも、よろしく願い申し上げます。

たくさんございますが、最後になります。多様な災害の対応についての最後になりますけれども、避難所はほとんどが公的な施設でございます。

今、アセットマネジメント計画、個別計画に入っているというふうに思っておりますが、個別計画については次回の一般質問にさせていただくとして、この避難所の立ち位置、避難所であるという考えもしっかり考慮しながら個別計画をぜひ立てていただきたいというふうに思うところがございます。

例えば長寿命化、集約化、スクラップアンドビルド、立て直しですね、今までの分をなくして新しく立てていく、そういった部分におきましても、避難所になるね、そしたらここここはもうなくしたから、こっちをしっかりと十分に避難所として、夏であれば冷房も必要



だよ、冬あるかもしれない、そういったときは暖房も必要だ、そういった細かい部分まで配慮をしていただきながらアセット計画をしていただきたいというふうに思うところがございます。

今、アセットマネジメント推進室ができて、2名体制でございますが、この2名で公共施設の管理計画、避難所の見直し、そういったところがちょっと大丈夫かなというところがございますが、その部分で何かお考え、——大丈夫かな、大丈夫だよというお答えでも結構ですので、いただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

アセットマネジメントの個別計画につきましては、安全性と耐震化の状況について重視をしているところがございます。避難所としての役割、そこら辺もしっかりと考慮をしながら、策定の参考にさせていただきたいと思っております。

それから、個別計画を策定するに当たりましては、アセットマネジメント推進室が司令塔となりまして、関係各課の案を取りまとめる、そういったことで進めてきております。

推進の体制につきましては、現人員体制で対応していきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

2人体制でも少数精鋭でしっかりと頑張っていたきたい。これから40年後、50年後先、子どもたちに残せるもの、バトンタッチができるもの、しっかりと避難所、命を守るところでもあるというような考えから、ぜひ考慮をしていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

それでは、2の教育についてでございます。

図書館・図書室についての質問をさせていただきます。

まず、ちょっと早目にまいります。武雄市図書館、それからこども図書館の利用状況について、来館者数、そこら辺のお尋ねを最初にさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

山口こども教育部理事

○山口こども教育部理事〔登壇〕

図書館の利用状況でございますが、武雄市図書館はリニューアル、また、指定管理者による運営になり、現在6年目を迎えております。

昨年度の来館者数は本館、こども図書館を含めまして、91万167人。こども図書館のみで、6カ月間ではあります。17万8,342人と多くの来館をいただいております。

5年間の累計来館者数は405万891人、直近の8月末までの累計では452万3,196人となっております。このうち、こども図書館のみの累計来館者数は、開館後11カ月で30万7,761人になり、去る8月24日には来館者30万人を達成することができております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

それでは、次にお尋ねですが、この武雄市図書館、こども図書館は置いといてですけれども、武雄市図書館に小中学生の利用、貸出冊数はどのくらいかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山口こども教育部理事

○山口こども教育部理事〔登壇〕

小中学生に関しまして、昨年度の貸出利用者数は1万5,090人、それと、貸出冊数につきましては3万8,641冊ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ちょっと年度で示していただきたかったですけれども、なぜこのような質問をするかという、武雄市図書館、とても素晴らしい図書館です。全国にも名立たる図書館だというふうに思っております。

しかしながら、小中学生にとっては少し、以前から思っていたんですけれども、ちょっと敷居が高くないかなというふうに思うところがございます。

もちろん、小中学生は学校に平日は行ってございまして、夕方は部活とか、そして学童に行ったり、おうちの人と夕方以降に出かけられる、また、週末に利用するという形で、当然大人、それから観光客の方々にすれば少ないとは思っていますが、ここをどうしても乗り切っていかなければならないというのは、全国の学力調査の結果が出ております。

佐賀県も、皆様方御存じのとおり、読解力の部分で低いというようなことが出ております。

読解力、やはりこの武雄市図書館がある、しかしながら活用がもっとできるんじゃないかというふうに思っておりますが、子どもたちというとやはり学校教育になると思うんです。学校の図書室の図書の先生、司書の先生の配置についてですけれども、今、武雄市どのような状況になっているかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

学校図書に係る人的配置ということでよろしいでしょうか。

〔3番「はい」〕

各小中学校とも図書担当の教諭1名、そして学校給食事務と図書事務を兼務する嘱託職員1名、大規模の御船が丘小学校と武雄中学校の2校につきましては、繁忙期の勤務としてさらに臨時的雇用職員1名が配置をされております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

この図書の司書さんの県内の配置の表でございますが、先ほど部長がおっしゃいましたけれども、これは高校も入っております。専任が1、これは武雄高校だと思われませんが、兼任で16。繁忙期には大規模校2校にはもう1人ずつの配置があるというようなことでございますが、これ兼任です。給食事務と図書の事務と兼務で務めていらっしゃいます。

毎月、大規模校になりますと280万円から300万円近いお金を計算する、触る、集まるということになります。

図書の先生と給食事務の兼務というのは、私はいかがなものかなというふうに思っております。ぜひとも、この兼任ではなくて、給食事務は事務の補助事務としてしっかりと配置をし、それから学校図書は学校図書でしっかりと配置をして、そして子どもたちの読書活動、学力向上、学校の教育の向上、そういったところでも、きのうも末藤議員おっしゃっていましたが、専門性がある、松尾陽輔議員さんもおっしゃっていましたが、専門性のある職員が必要じゃないかというふうな一般質問もありました。私もそう思います。

しっかりと、学校事務なら学校事務、給食事務は給食事務、そして図書は図書の先生をしっかりと置いて図書活動を深めていっていただきたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

その前に、先ほどの質問の中で、武雄市図書館で小学生、中学生が少ないんじゃないかということですが、率としてはよそと比べて低いわけではございません。

それから、学力調査と図書との関係ですが、確かに読解力ということは非常に大事なことで、これが大事なことは言うまでもないんですけども、そこは直結まではしないと。

ただ、小学生の場合は、やはりよく本を読む子のほうが成績高いと。中学校ではそうでもないんですけども、そういうことで、読書をするということは非常に、基本的に大事な力であるということを考えております。

そしてお尋ねの件ですけれども、確かにおっしゃいますように専門的な司書の方が、資格を持った方が毎日図書室にいていただくというのが理想かと思います。

現状として、武雄市の場合に給食図書事務ということでしているわけですが、御存じのとおり、以前に比べまして生活支援員さんとか特別学級の支援員さんとか、そういう形で別の形で入っていただいている状況もございます。経費的にも相当な額が必要かというふうに思いますし、また、司書教諭の資格を持った方を任用するという人材面での課題もございます。

そういうことで、現在のところは給食図書事務で任用していただいている方は一生懸命やっただいていてというところでカバーしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

今も一生懸命やっただいていてということは重々承知をしております。

単刀直入にお聞きいたしますが、今、武雄市図書館は、こども図書館もそうですけれども委託でございます。

司書の、学校の司書の配置も委託でしたらどがんですか、できんですか。お願いいたします、御答弁を。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ちょっと検討したことありませんでしたので、検討させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

私、できると思うんです。委託で学校の図書、司書を配置しているところもあるんです。武雄市ができないということは絶対ないというふうに思っています。

資源があるんです。武雄市図書館のような立派な図書館が、全国に誇れるような図書館があるんです。これを生かさない手はないというふうに思っております。ぜひとも、よろしくお願いいたします。考えてください、お願いいたします。

また議論を深めていきたいというふうに思っております。

8月に埼玉県の上郷市立前谷小学校というところを、見させていただきました。

1階に図書館がありまして、夏休みだったんですけれども、きょうは60人くらい子どもたちが来まして、図書館に来てくれましたということでした。1階ですので、学童の子どもたちも、それから夏休みで自宅にいる子どもたちも、図書館を、こちらのほうから入ってき

て利用がしやすいということでございます。そして学校でも、読書でさあ夢の世界へ、こういった配慮がたくさんのところに見られました。

もちろん、武雄市内でもたくさんの配慮をしてくださっているとは思いますが、この三郷市さんが、——学びあいのまちづくり、時間ありませんので入っていきますけれども、これは日本一の読書のまちということで、左のほうは教育委員会のちょうど入り口のところでございましたけれども、こういった賞状とか子どもたちの取り組み、日本一の読書のまち三郷。ここにもあります、日本一の読書の、日本一の読書のまち。

こちらは右側ですね、三郷市役所の1階ロビーで待っていらっしゃる方が、本を読んだりして待っていただくというようなことを配慮されているところでもございました。

また、子どもたちの読解力を深めていきたいねということで、「言葉の力」ということで、低学年、中学年、高学年、中学生用として市の教育委員会が副読本を発行されて、そして子どもたちに、そしておうちで保護者の方と、そしておじいちゃん、おばあちゃんたちとこの副読本をしっかりと読んでねというふうに、後書きにも書いてあります。楽しく読んでね、たくさん読んでね。

所管は、読書推進課という課も設けてあります。

武雄市も、新たな学校づくり推進室というところがございます。

こういったICTの、ITの、また、タブレット学習、それから官民一体型の学校づくり等、加えてこういった読書の活動、しっかりと子どもたちの生きる力、言葉の力、感性を養う教育ができるように配慮をしていただき、それから取り組んでいただきたい。これができるまちだと、武雄市はもっともっとできるまちだというふうに思うところでございます。ぜひともこういったところを生かしながら、しっかりと取り組んでいただきたい。

また、北海道の剣淵町は絵本の館、これが30年も続いている、絵本でまちづくりをしているところでございます。

また、北海道の滝川市は、市役所の2階が図書館になっております。市役所の職員さんたちが昼休みに調べ学習に来たり、本を読みに来られたり、そういった風景も見られるということでございました。

この武雄市図書館をもっともっとまちづくりに生かす、そして、これは剣淵町に講談社のほうから寄附、贈呈をされた移動図書館でございます。これが町内回っています。

また、剣淵町は至るところ、まちの中に、商店の壁、道路から見えるようなところにも、「絵本の里けんぶち」というようなロゴが壁にも入っていて統一感がございます。

また、先ほどの三郷市も日本一の読書のまちとして、まちの至るところに読書をしようという意識をさせるような一体感がありました。

こういった取り組み、市内全域に子どもから高齢者まで、そして市内全域平等に本が手に取れる、そういったまちをつくれる武雄市ではないかな。武雄市図書館を中心にこれができ

るまちではないかな、もっともっとまちづくりに、——本を読む、そして先ほどの防災のグッズの展示のところでも防災の本を置く。そしたら、この本と防災グッズでセットになって学習が、学びが深められる、そういった取り組みがもっともっと武雄市内では必要になってくるんじゃないかなというふうに思っています。

伊万里市におきましても、ぶっくんという移動図書館が2台、市内を循環して小中学校、それから幼稚園、保育園、福祉施設、それから企業にもこの本が回っているということで、市内でたくさんの本が平等に読まれているというような取り組みでございます。

市長、このような移動図書館で市内全域に、——サロンの皆様、地域の自治の公民館でも高齢者サロンさんが開かれています。市長さんも何回も来て一緒に取り組みをされていますが、そういったところでも、高齢者の皆様にも学びの場ができるんじゃないかなというふうに思っております。市内全域に平等に、子どもから高齢者の方々まで本を手にとって学びあいのまちができる、そんなまちではないかなというふうに思っています。

また、これもあわせて市長さんにお尋ねなんですけれども、今、4カ月の子どもさんにブックスタートが、武雄市ではまだ継続をいただいています。

これを、ランドセルブックスタートも、市長さんが、例えば本を選定して小学校1年生に本をプレゼントする、そういったこともでき得るんじゃないかなというふうに思っています。

子どもからお年寄りまで、そして市内全域平等に本の風が吹く学びあいのまちづくりをということで取り組みをできるまち、武雄市図書館を生かして、こども図書館を生かしてもっと市内全域に、本のまちづくり、そういったことができるんじゃないかなというふうに思いますが、市長、お考えをお聞かせください。

#### ○議長（杉原豊喜君）

小松市長

#### ○小松市長〔登壇〕

キーワードは市民参加、みんなで作るってところだと思います。

先ほど言われました学校図書館、図書室も決して司書さんだけがつくるわけではなくて、例えば地域の人だったり子どもたち自身がつくる、つくことでまた愛着が湧くという、いろんな人がそこにかかわるというようなやり方も私はあるんじゃないかなと思いますし、今、図書館であればブックスタートだったり、あと小学校でも読み聞かせボランティアだったり、いろんな人が今いろんなところで活動をしてもらっています。その図書館を核として、図書室を核として参加をしてもらっています。

そういった広がり、図書館ではもちろんのこと市内全域に広げていくと。本を通じた市民参加、ちょっとした参加でもいいと思います。そういった機会を今後さらに広げていって、みんなで作っていくというふうな考えで進めていきたいと、まさにこういった学びあいのまちにつなげていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

地域福祉の向上にもつながるんじゃないかなというふうに思っています。

地域の全体に本が届けられる、そんな優しいまちになればなというふうに思っています。

これで猪村利恵子の9月議会一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番猪村議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 11時54分

